

刻む会 たより

No. 22

長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会
代表 山口武信
宇部市常盤町一―一九(TEL-8003)
二〇〇〇年十一月二十七日発行

飯塚市役所及び飯塚墓園に

朝鮮人強制連行犠牲者追悼碑建立地を訪ねて

山口武信

第二次世界大戦末期、筑豊の地に倒れた朝鮮人強制連行犠牲者のための追悼碑の堂を建立する活動を、在日韓国人妻来善氏が中心になつて続けておられるので、宇部市の関係職員にも、是非一度、現地を見てもらいたいと思ひ、かねてより、市健康福祉部に、私たち長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会の者と一緒に飯塚市訪問を実現させるよう宇部市から飯塚市に連絡して日程の調整を図つてくれるよう申し込みをしてあつたところ、十一月十日(金)訪問、とやつと、日程が決まつた。宇部市の総務部から矢富部

長、担当の健康福祉部からは古林部長以下数名の職員の方が、飯塚市を訪問するという話になつた。「刻む会」からは六名くらいが参加可能ということだつた。

十一月十日いよいよ出発。飯塚市では、追悼碑建立の中心である妻来善氏が出席されることになつていたので直前になつて急用が出来たので、時間までには飯塚市役所に行くことが出来なくなつたので、他の実行委員を行かせるといふ電話が入つた。「刻む会」でも、残念ながら、島先生が、授業のために参加できなくなつたという。

佐々木県議からも、所用で参加できなくなつた、と連絡があつた。結局、参加者は、益田市から澄田先生、教会の戸井先生と山口、それに大変嬉しい事に出産間近の山内さんを残して大野さんが参加してくれることになつた。宇部市の車が出せなくなつたので、大野さんの車で、彼の運転で行くことになつたので大いに助かつた。

十一月十日(金)午前九時四十分、島先生の見送りを受けて、飯塚に出発した。幸い天気も良く、大野さんは、初めての道だというのに大変スムーズに飯塚市役所に到着。出発から二時間かかつた。昼食をとつても、約束の十二時五十分には、まだ、一時間近くあつた。

十一時前に着いたという宇部市役所の古林部長連と合流外に出て、飯塚市役所の建物の写真を撮つていたら、声を掛けられた。飯塚市役所の庶務係長さんだつた。一応ロビーに戻つて、暫く待つて四階の第五会議室に案内された。

夫々席について、十三時キツカリに説明会が開かれた。先ず、飯塚市総務部田中庶務課長から挨拶があり、宇部市役所古林健康福祉部長、「刻む会」の山口と順次挨拶、夫々出席者の紹介があつた。出席者は次の通りである。

飯塚市

総務部

部長 上瀧征博

庶務課長 田中智

庶務係長 丹所寛治

庶務係長 井桁政則

都市建設部

課長 塩崎健

計画指導係長 笛田邦義

街路公園係長 山北康夫

在日筑豊コリア強制連行犠牲者追悼堂建立実行委員

理事 芝竹夫

市会議員 松熊

宇部市

健康福祉部

部長 古林信義

課長 末次宣正

係長 谷山

「刻む会」

澄田亀三郎、戸井雄二

大野剛義、山口武信

市役所から、二部関係資料が配布された。

一、在日コリア強制連行犠牲者納骨式追悼碑建立に係る経緯(九頁)

二、追悼碑建立に係る別紙資料(十一頁)

外に、飯塚霊園国際交流広場

図面一枚
右資料、特に、一の経緯の書類の日付にそって説明がなされた。

それを要約すると、追悼碑の敷地三三〇平方メートルは「飯塚霊園国際交流広場」として飯塚市が造成し、その中に三メートル四方の納骨堂を建立実行委員会が責任を以て建立するというものであった。一通りの説明があつた後、次の様な事が話し合われた。

△田中▽基本的には民間の個人墓地を建てることだが、飯塚霊園条令にそって最大限に利用させることになった。国際交流広場は、飯塚市が造成したが、納骨堂は、募金活動による建設基金があつたので、その資金によつて建立さ

れる。納骨堂といわれる追悼碑(納骨式)の管理については、覚書第九条に、広場に設置した乙(実行委員会)の施設は、乙の所有物とし、乙は施設の維持管理に責任を持つことになった。催しなどは広場で行なわれることになる。

△古林▽地区住民の認識理解を得て、どういう時期にコンセンサスが出来たと判断したのか。
△田中▽実行委員会が、企業民間団体へPRしてきた。市がリーダーシップをとつたのは、平成十年八月五日の追悼碑建立に係る記者会見をしたのが只一の行動である。それまで、市はなぜ追悼碑建立に係わるのか、というような反対の反響はなかつた。

△古林▽議会ではどのような反響があつたか。
△田中▽平成十一年に、松熊さんでない議員から質問があつたので説明した。
△松熊▽平成十二年十二月二日に第一期工事が終了するが、国際交流広場の壁にレリーフを刻みたいので、これか

らも工事は継続する。かつて石炭の採掘がされていた広い意味での筑豊炭坑の歴史のレリーフを壁に貼りつける。

△古林▽飯塚市には国際交流課はあるか。

△田中▽あるが、他の部課も狭い意味で交流している。説明会は、十四時四十分を終了。次いで、追悼碑見学。

追悼碑の現地見学

飯塚市の用意したマイクローバスに全員乗車して、飯塚霊園に行った。程なく現地到着前訪問した時は、ただの草原だったが、今回は、全体が掘り下げられて、砂利が敷かれ、階段とスロープが設けられていた。

広場の中程に、韓国風のお堂が建っていた。これならば車椅子でもお参りが可能である。追悼碑は建物の中心に黒御影石の石碑があり、正面は格子、後には入り口のドア、左右には遺骨を置くための棚がつけられている。外は、屋根が寺院風に正方形の建物の四面に丸瓦を使って葺いてあ

り、軒の四すみには優しい鬼瓦、軒先には韓国国花の槿の花の軒先瓦が使われており、軒には赤い漆を塗った軒材が用いられて、優美なお堂の形をしている。

実行委員会代表の妻采善氏は、既に現場に来て、色々と広場の指示や、記者たちに対応したりで多忙であられた。新聞・テレビの記者やカメラマンたちが取材に立ち働いていた。進行中の工事の職人さんなどもいて、賑やかであつた。

見学を終つて、バスで飯塚市役所に戻つたのは、十五時三十分で、予定より遅れたため、宇部の市関係の人々は帰つて行かれた。

私たちは、妻采善氏と約束があつたので、市役所横のホテルで、十六時十分まで待つて、十七時まで妻代表の話をうかがつた。

間もなく二十世紀が終る。宇部でも、「刻む会」と市(行政)の間で話し合うことが大切である。一九四二年二月三日、二百人近い人命が失わ

れて、今なお放置されたままである。それはいけないことだ。今世紀の終りの一ヶ月余の期間中でも行政に働きかけて、来世紀のために何をなすべきか、積極的に新世紀の為に働かなければならない。

建物は一千万円、次に第二段階としてレリーフを造る。

宇部でも位牌を置いておくものを建てる必要がある。飯塚の工事業者は、宇部の為にも仕事をすると知っている。

宇部でも行政に強く働きかけて、今年中に土台を作っておくことが大事である。

右が、斐菜善氏の話の要旨である。

宇部の「刻む会」には、また異なった事情があるが、飯塚の碑の建立は、私たちを大変元気づけてくれる出来事であり、私たちも、決意を新たにして取り組まなければならぬと思った。

夕闇の高速道路を関門橋を渡り、十九時、緑橋教会に着した。

参加していただいた方々、ありがとうございました。遠

くから参加頂いた澄田先生、大野さん、ありがとうございました。



事務局よりお知らせ・お願い

『刻む会』では皆様からお寄せいただいたカンパによりすでに9回追悼式を催し、韓国より（毎年10名前後の）遺族の方々を招待することができました。

来年の計画も次の通り決っています。ぜひご協力ください。

* 2001年2月3日（土）午後1時

宇部市西岐波・事故現地海岸にて追悼式举行

海に沈んだ炭鉱

フィールドワーク2000報告

子供達とその父母を対象にここ数年毎夏行なってきたフィールドワークを、今年は七月二十三日(日)の午後実施した。参加者は約四十名。昨年からは参加者の層と巾が広がったことは嬉しく、地元および学校を中心にピラを配布した効果が少しづつ現われているように思える。

午後一時、西光寺において犠牲者の位牌を前に、山口先生のおいさつと“水非常”についての話しに始まり、例年通り、紙芝居『アボジは海の底』(山内)、OHPを使つて石炭・宇部の炭鉱と強制連行の話(島)、さらに今回初めてKRYの了解を得て、かつてテレビで放映された「長生炭鉱の水没事故と水非常を歴史に刻む会の活動」を紹介したビデオを上映して皆で過去の歴史を学んだ。引き続き、全員で長生海岸に移動し、

海上に姿を見せている二本のピーヤを目の前にして犠牲者の平安を祈つてそれぞれ花をささげた。五十八年前の二月三日

宇部の西岐波の長生炭鉱で起つた水没事故のため、百八十三名もの人が犠牲となり、その中の百三十四名が朝鮮から連れてこられた労働者であったという事実、この事を一人でも多くの若い人達に伝えていきたいと思う。この事を通して、若い人達が、これからの新しい日本の友としてのアジアと日本の関係を造り上げていけると思うからである。

(島 敏 史)



「負の歴史を多くの人に」

小学生ら40人が熱心に

長生炭鉱フィールドワーク

宇部市西岐波床波の長生炭鉱で一九四二年に発生した水没落盤事故について学ぶ「海に沈んだ炭鉱フィールドワーク」が二十三日、位はいの安置されている向坂の西光寺と、長生海岸で開かれた。市内外から小学生ら四十人が参加。歴史的な背景や事故の話を聞いた後、ピーヤ(排気筒)を眺めて献花し、犠牲者をしのんだ。

(宇部時報)

ピーヤの永久保存活動や韓国遺族を招いて追悼式を行っている、長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会(山口武信会長、百人)が、子供向けに企画し、夏休みに毎年開催。同事故では百八十三人が犠牲となり、うち百三十四人が朝鮮人労働者だったといわれている。西光寺では位はいと対面し、創氏改名を学習。会員の山内弘恵さんは手作りの紙芝居『アボジ(お父さん)は海の底』を発表した。島敏史山口大名菅教授は、石炭のかけらを配り、石炭と宇部の炭鉱の歴史について説明した。

長生海岸では、海岸に眠る犠牲者たちに向けてユリやキク、キキョウなどの花をささげた。韓国人被爆者の救済募金活動をしている前田直美さん(もも)西岐波大番は「負の歴史は隠されがちだが、一人でも多くの人に事実を伝えていくことが大切。犠牲者の慰霊にもなると思ふ」と話していた。

